

産学官でCIM構築

維持管理に照準 モデル現場選定

国土交通省は、維持管理段階までを見据えたCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の活用に向け、産学官が連携した新たな検討体制を築く。調査・設計、施工、維持管理といった各建設生産プロセスの現場実態に即したものとするため、事業の段階や分野を考慮し、実モデルを構築する5現場を選定した。産学官によるCIM構築は、2014・15年度の2カ年をかけて実施する。各段階に求められる精度や付与すべき属性情報などを検討し、16年度に予定しているCIM導入ガイドラインの策定に生かす。

＝関連2面

モデル現場は既にCIMを活用している橋梁2件、トンネル、ダム、河川が各1件の計5件。「産」の立場からはCIM技術検討会メンバーや業界団体、「学」は土木学会、「官」としては国土交通省、地方整備局、事務所、国土技術政策総合研究所が関与する。

矢吹信喜阪大大学院教授が個別案件ごとに関別目標も設定した。関東地整横浜国道事務所の「横浜環状南線栄IC・JCT（仮称）」では、幅員や形式、寸法、数量、重量といった属性情報の入力範囲、各プロセス間のデータ受け渡しや受発注者間のデータ共有のあり方などは、共有項目と

は完成、構造物個別モデルの作成に移る。ここは複数の高架橋が複雑に絡み合うような現場のため、CIMに時間軸を組み込み、事業進捗に合わせた最適な施工手順の立案や全体調整などに役立てる。

関東地整北首都国道事務所の「国道4号東埼玉道路大落古利根川側道橋」は、これから大日本コンサルタントが本格的な設計に入る。設計段階から、施工や維持管理のことを考えて、3次元モデルを作る。

中部地整浜松河川国道事務所が発注した「佐久間道路浦

川地区第一トンネル」の個別目標は、施工から設計へのフィードバック。この現場は、設計段階でCIMを使っているが、施工者の大林組が独自でモデルを構築している。施工側が作成したモデルをもとに、設計段階に求められる属性情報などについて意見を交わす。

東北地整北上川ダム統合管

理事務所が管理する「胆沢ダム」では、新たな情報管理手法の構築と既存維持管理方法の高度化を目指す。胆沢ダムは、全国のダムで初めて維持管理にCIMを導入している。クラックや漏水、その補修履歴などを蓄積し、効率的な日常点検などに生かしている。

北陸地整千曲川河川事務所

の「荻原築堤護岸他工事等」では、CIMと情報化施工におけるデータのやり取りや連携の方策を検討。維持管理を見据え、変位を迅速に把握する仕組みなど、新たな河川管理の方向性を探る。モデル構築を含む設計は、東京建設コンサルタンツが担当した。金森建設（長野県大町市）が施工する。

【建設ICT】

- | | | | |
|---------|---------|---------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊 | 5. 日経 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 | 業事 |
| 10. 中部経 | 11. 建通 | 12. 日刊工 | |
| ⑬建設通信 | 14. 信濃毎 | 15. 日本海 | |
| 16. 建設工 | | | |

平成26年12月5日(朝)・夕) P 1